

人工知能の現状を知る

ご購入はこちら

佐藤 聖



(a) 労働集約的な作業

(b) 膨大な情報を扱う作業

(c) 経験や判断に頼る作業

図1 人工知能が得意な分野

既に利用が考えられている分野

● とてもたくさん出てきた

3～4年前と比べると人工知能の応用事例が大変多くなりました。次のようなケースに人工知能を応用することが多いようです(図1)。

- ①労働集約的な作業
- ②一人の人間には覚えきれないような知識が要求される作業
- ③人間の経験や判断に頼るような作業

ニュースなどで企業の人工知能システム・プロジェクトの事例を見聞きする機会が増えています。下記のような事例があり、社会を支える重要なテクノロジーになっています(図2)。

- ・掃除ロボット
- ・スマート・トイ
- ・スマート・スピーカ
- ・自動車の自動運転
- ・製品の安全検査
- ・コール・センタのオペレーション業務サポート
- ・クレジット・カードの不正使用検知
- ・個人ローンの与信
- ・ウェブ検索エンジン

- ・ウェブ・サイトのセルフ・サポート
- ・ECサイトのリコメンデーション
- ・新しい料理のレシピ開発
- ・投資用不動産の取り引きサービス
- ・マンション価格の変動予測
- ・投資信託の組み入れ銘柄選択サポート
- ・為替の取引支援
- ・ニュース記事の自動生成
- ・がん細胞の特定
- ・病院の予約キャンセル予測
- ・採用業務の書類選考
- ・食品原材料の品質管理
- ・ホテルや観光地、ターミナルでの旅行者向けコンシェルジュ
- ・工作機械や空調設備、エレベータなどの遠隔診断
- ・犯罪の発生予測
- ・語学学習
- ・学校教育向けアプリ
- ・スポーツの試合結果予測
- ・業務の効率化や自動化(RPA)注1

● 人手不足を補う「超便利ツール」としてのAI

上記はいずれも既存の仕事を効率化する使い方ですね。国によって人工知能の応用が盛んな産業が異なる